

鎌倉幕府

初代将軍：源頼朝の子 2代将軍 ()
↑
↓ [対立]
頼朝の妻 () の生家 (氏)
・頼家を殺害
・他の有力な () を倒す

1203年 () は、3代将軍 () をたて、
[] となる。
その後、政所・侍所の長官を兼ねた。

3代将軍 () も暗殺され、源氏の将軍は絶えた。
↓
御家人同士の争い

1221年 []
() 上皇は、執権 () を討つ命令を
全国に下した。

↑
() の元に集結した幕府軍は、朝廷軍を破って
京都を占領した。
・後鳥羽上皇を隠岐へ
・順徳上皇は佐渡へ
・土御門上皇は土佐へ流された。

・乱後、幕府は、上皇方に味方した公家や武士の所領を取り上げ、
東国の御家人をそこの () に任命した。

・京都には、() を設けて、() を見張らせ、
西国の御家人を監督させた。

・幕府の力が強まったので、次の () を決めるのにも、幕府の意見を
聞くようになった。

源実朝 (1192年～1219年)

承久元年正月の雪の夜、27歳の若い3代将軍実朝は、鶴岡八幡宮での右大臣になった式を終えた帰路、社前の石段の途中で、大銀杏のかげに隠れていた兄・頼朝の子・公暁の刃にかかって、あえない最期を遂げた。公暁も捕らえられて殺され、源氏の正統は思いのほか早く絶えた。

こうした悲劇の背後に、権力争いの陰謀がめぐらされていたことはいうまでもない。多感な青年実朝は、その現実に耐えかねて和歌の世界に逃れようとした。

執権政治

鎌倉幕府、北条氏が執権の地位によって幕府の実権を掌握した政治形態。北条氏が執権となったのは、1203年北条時政が将軍頼朝の外家である比企氏を滅ぼし、頼家を廃して実朝を擁立し、みずから政所別当(執権)に就任したときが最初であり、これを広義における執権政治の成立と見ることができる。

1213年には、執権北条義時が侍所別当和田義盛を滅ぼし、北条氏がその後、政所・侍所両別当を世襲するにいたった。